

# 昭和42年北海道耳鼻咽喉科 保険医総辞退の顛末

岩見沢市医師会  
中村耳鼻咽喉科・呼吸器科

中村 興治

私も齢80歳を数え55年に及ぶ耳鼻科医としての仕事も終わろうとしている今、記憶に残るある事例について述べておきたい。

昭和42年9月10日付け、中医協（厚生省中央社会保険医療協議会）は耳鼻咽喉科処置料を減点すると告示した。その直後ただちに行動をおこしたのは日本耳鼻咽喉科北海道地方部会社療委員会であった。9月21日犬山市での日本耳鼻咽喉科学会総会で、処置料点数を引き下げる告示は暴挙であるとして、日本耳鼻咽喉科学会は絶対に承服できないとし、学会は重大なる決意を持たざるを得ないという決議案を厚生省、中医協、日本医師会に送り、学会の反対運動が始まった。この反対運動には政治的な問題が絡む可能性があり、日本耳鼻咽喉科学会は学術団体で反対運動を起こすことには限界があったため、当時全国の耳鼻科医数は3,000名ほどであったが、新たな耳鼻咽喉科医の組織（医会）を結成すべきとして、全国各地の医会が連合して全国耳鼻咽喉科連合会という形態が成立した。北海道では10月8日の北海道地方会臨時総会で北海道耳鼻咽喉科医会の結成が承認され、11月2日第1回設立総会が開催され、正式に北海道耳鼻咽喉科医会が設立された。この総会で耳鼻科処置料を33%減額するという健保改悪に反対するとし、保険医総辞退が承認された。医会はこの結果を北海道医師会に提出し、12月17日北海道医師会は耳鼻咽喉科の専門技術を正当に評価し、低処置料を是正するよう大臣に要求し、12月18日園田厚生大臣と覚え書きを交換し、日本耳鼻咽喉科医会連合会は保険医一斉辞退を撤回することになった。昭和45年2月1日医療費改定の告示があり、これによって耳鼻咽喉科処置点数も解決し、耳鼻咽喉科の理念闘争も終止符を打った。保険医総辞退の当日、浦河赤十字病院の玄関は閉じられ、病院存続のため院長のみが院内に残り、各科の先生方が全員白衣姿で受診してきた患者さんに休診の趣意書を手渡し、理解と支援を求めた。特に患者さんとの間に一斉休診の混乱を招くことなく終わった。全国の各地の一部の医師が私たちの運動に同調したと後に聞いた。半世紀前に北海道で、医師が時の政府と戦った事実を知ってもらいたく、古い記憶を思い出しながらペンをとった。

# 多様性というけれど…

札幌市医師会  
札幌白石記念病院

大村 計

2019年北海道大学医学部は創立100周年を迎え、記念行事が行われた。講演会のみ足を運んだが、その際にもらった概要の冊子に2019年度の入学状況が掲載されていた。入学者は102人、そのうち女性は18人、比率は17.6%であった。

昨年、上野千鶴子先生による東京大学の入学式祝辞が話題となったが、女性の比率が18.1%で例年のごとく2割の壁を突破できなかった。今や医師国家試験の3分の1が女性なのだが、北大医学部は東大と似たような比率となっている。自分の学年はというと、1992年入学当時、医学部100人中女性は11人で、道内出身者は1人のみであった（しかも札幌ではない）。

卒業20年以上経過して、女性が働く環境も少しずつだが変わってきたように思う。内閣府や企業活動、学会などでも女性関連のセッションがよく行われている。そして、女性が活躍できる社会を築くためには、多様性を認めようという話になる。

では、同期の出身地はどうだったかということ、数えたことはないが、道外出身者は半分くらいだったであろうか。学生時代を思い出すと、お互い出身地の言葉で会話が進んでいた。マクドに行こうと誘われたことがある。日本全国マクドナルドはマックだと思っていたが、関西圏ではマクドというのだと初めて知った。2チームに分かれるとき、ゲーパージャスだと思っていた、パーを出して怒られたこともあった。各地でさまざまな言い方があるようだ。そんな中で、楽しく過ごさせてもらった。

最近では、北大全体の入学者は約7割が道外勢である。私も北海道出身ではないのだが、人生の半分以上を北海道で過ごしてきたこともある。地域的な多様性は北大のよい所だと思うが、これが何を意味するか、考える必要があると思う。そして、上記のように女性が少ない意味も。医学部に関しては、医師の子弟が多く、家庭環境の多様性は他学部より少ないであろう。

多様性を辞書で引いてみると、‘いろいろな種類や傾向のものがあること。変化に富むこと’と書かれている。しかし、生物学者によると、ヒトは人種などの観点から多様性があるように言われるが、生物全体で見ると、多様性なんかほぼないと言えるのだそうだ。

多様性について突き詰めると、哲学的なあるいはコストなどの観点が入ってきて難しくなりそうで、単に学生時代のように楽しく過ごせればいいたろうとも思ってしまう。またの機会に考えてみたい。